

社会福祉事業における社会的インパクト評価活用の可能性**ーホームレス支援における社会的インパクト評価ツールの作成を通してー**

○ 大妻女子大学 氏名 藤本 優 (会員番号 8935)

新藤 健太 (群馬医療福祉大学・8608)、巢立 佳宏 (群馬医療福祉大学・8434)

キーワード3つ: 社会的インパクト評価 ホームレス支援 アウトカム

1. 研究目的

近年、社会福祉領域においても「ソーシャル・インパクト・ボンド (SIB)」や「社会課題解決のための休眠預金の活用」、「各種助成財団が行う助成金による事業運営」など、民間資金等を呼び込み、社会福祉領域における先駆的な実践 (プログラム) を開発する潮流がみられる。ここで重要なことは、社会福祉領域における課題の解決に向けて効果的なプログラムをいかに開発するか、また、その成果をどのようにして可視化するか、ということである。この「成果をどのように可視化するか」の部分について、我が国でも社会的インパクト評価の取り組みが行われている。社会的インパクト評価とは、福祉や教育、芸術といった「一見してどのようなことが成果なのか」がわかりづらい (数値等で示しづらい) 取り組みの社会的価値を明らかにするもので、そのための評価ツールもいくつか作成されている (社会的インパクト評価イニシアチブ 2019)。報告者らも、この社会的インパクト評価の取り組みに参加し、「ホームレス支援」をテーマに評価ツールの作成を行っている。

本研究では、この「ホームレス支援」における評価ツール作成の取り組みを例として挙げ、「ホームレス支援」をはじめとする社会福祉領域において、社会的インパクト評価が貢献できること、貢献すべきこと、今後、社会的インパクト評価が有効に機能するために求められることを考察する¹⁾。

2. 研究の視点および方法

まず、評価ツールの作成を行うチームを設けた。このチームは、社会福祉領域で活躍する研究者3名と実際にホームレス支援に従事する実践家2名にて構成されている。

次に、評価ツール作成チーム内で意見交換を重ねつつ、インターネット等を利用して、国内外で公表されている「ホームレス支援に関するロジックモデル」の収集・分析を行い、さらに、ここでの分析をもとにして、「我が国におけるホームレス支援の一般的なロジックモデル (以下、単に『ロジックモデル』という言葉を用いる)」を作成した。なお、このロジックモデルは実際に我が国のホームレス支援において先駆的な活動を行っている NPO 法人 A の職員に確認をして頂き、内容の妥当性を検証した。

そして最後に、既存の先行研究等から、ロジックモデルに位置付けられた様々なアウトカム (成果) を測定するための尺度・指標を検索し、これらを一覧に表示することでホームレス支援を対象とした社会的インパクト評価・評価ツールを作成した。

3. 倫理的配慮

本報告に際しては、日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき構成した。

4. 研究結果

本研究の結果として作成されたロジックモデルでは、ホームレス支援の対象として、①ホームレス（元ホームレスを含む）と、②地域（地域住民）の2者が位置付けられた。

まず、①ホームレス（元ホームレス）に期待される直接的な変化（直接アウトカム）として「住居の確保」及び「サービスへのアクセス」、「教育・就労の機会を得ること」が、中期的な変化（中間アウトカム）として「健康状態の改善」及び「学力・就労スキルの向上」、「サービスの受入とその定着」、「親密な人間関係の形成」が、最終的な変化（最終アウトカム）として「生活満足感・自己肯定感の向上」及び「自立した日常生活」が位置付けられた。また、②地域（地域住民）に期待される直接的な変化（直接アウトカム）として「(ホームレスに対する) 関心・交流の向上」が、中期的な変化（中間アウトカム）として「地域における支援者の増加」が位置付けられた。

なお、本抄録では紙幅のために割愛するが、これらのアウトカムそれぞれについて、これを測定するための尺度・指標をあてがい、その一覧を作成した。

5. 考察

本研究によって、我が国においてホームレス支援を実施することの具体的な成果・社会的価値が可視化され、これを測定するための尺度・指標が設けられた。本研究では、このようにして作成された評価ツールが、あるいは評価ツールを使用した評価活動（社会的インパクト評価）が、ホームレス支援に貢献できること、貢献すべきこととして、次の3点を考察した。それは、①ホームレス支援が最終的に目指すゴールの達成に向けて必要なことが可視化されたため、これをモニタリングしながら事業運営を行えること、②ホームレス支援の成果を具体的に示すことで、これに助成した財団、あるいは行政や一般市民への説明責任を果たせるようになること、③ホームレス支援に関わる成果について、様々な事業者間で共通の尺度・指標を用いることが可能なため、お互いに切磋琢磨して事業を改善していくことに活用できること、である。

また、今後の課題としては実践現場で、いかにしてこの評価ツールを活用していくか、どのようにすれば、実践現場で活用されやすくなるのかを検討していくことが挙げられる。

ⁱ 本研究は、GSG 国内諮問委員会社会的インパクト評価ワーキング・グループ、「ホームレス支援評価ツール作成チーム(チームリーダー:新藤健太)」の取り組みとして実施された。

参考文献等：

社会的インパクト評価イニシアチブ(2019)『社会的インパクト評価イニシアチブ・ツールセットのダウンロード』<<http://www.impactmeasurement.jp/guidance/>>.